

---

「場」を盛り上げる



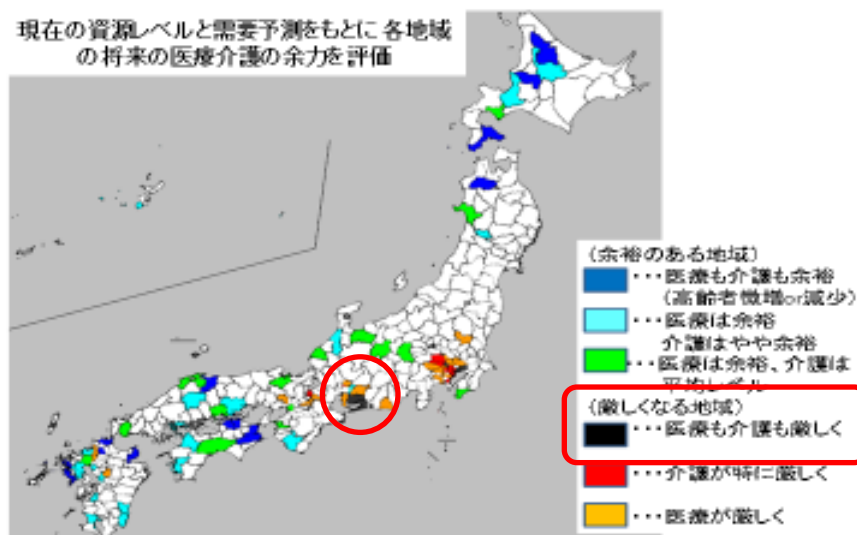
# 地方創生 ～どう楽しみながら担い手になって頂くか？～

## ● 三河エリアは医療も介護も厳しい状態

### 将来の医療介護需給見通し(民間試算)

○ 今後の高齢化や人口減少の動向を踏まえた2040年の将来推計(民間試算)によると、各地域によって医療介護の需給見通しは大きく異なってくる。

現在の資源レベルと需要予測をもとに各地域の将来の医療介護の余力を評価



※ 第9回社会保障制度改革国民会議(平成25年4月19日)  
高橋教授提出資料

17

# 地方創生 ～どう楽しみながら担い手になって頂くか？～

- 小規模多機能支援拠点の解の1つ→三谷ではどんなモデルにする？
- (個人的には) この後の事例&パネルが相当楽しみです

## 小規模多機能支援拠点(地域福祉の拠点)「あったかふれあいセンター」[高知県の取組]

- 人口減少等に対応するため、1箇所で、既存の制度の枠組みを超え、多様なサービスを提供できる仕組みを構築している。
- 中山間地域では、介護や障害者の自立支援、子育て支援など、多様なニーズがありながらも、それぞれの利用者が少なく民間参加が進まないため、いずれのサービス提供も成り立たないおそれがある。
- そのため、高齢・障害等を問わない福祉横断的な支援拠点の確保、フォーマルなサービスでは担えないニーズに応える施策の充実・強化に取り組んでいる。

### 高知県が抱える課題

- 全国に比べ、人口減少は15年、高齢化は10年早く進行  
→ 地域の支え合いの力の急速な弱体化
- 人口減少や高齢化が進む中、単身世帯や高齢者世帯が増加  
→ 新たな生活課題の拡大
- 新たな課題に対応するサービスが存在せず、家族が抱え込み過度な負担となっている。



### 今後の方向性

- ・ あったかふれあいセンターの強みを踏まえ、中長期の事業計画を策定
- ・ 生活困窮者支援や新たな地域支援事業等にも柔軟に対応できるよう、さらなる進化・発展を目指す

地域コミュニティ活動の活性化や地域の支え合いの再構築で、いざという時も安心・安全な地域づくりを推進!

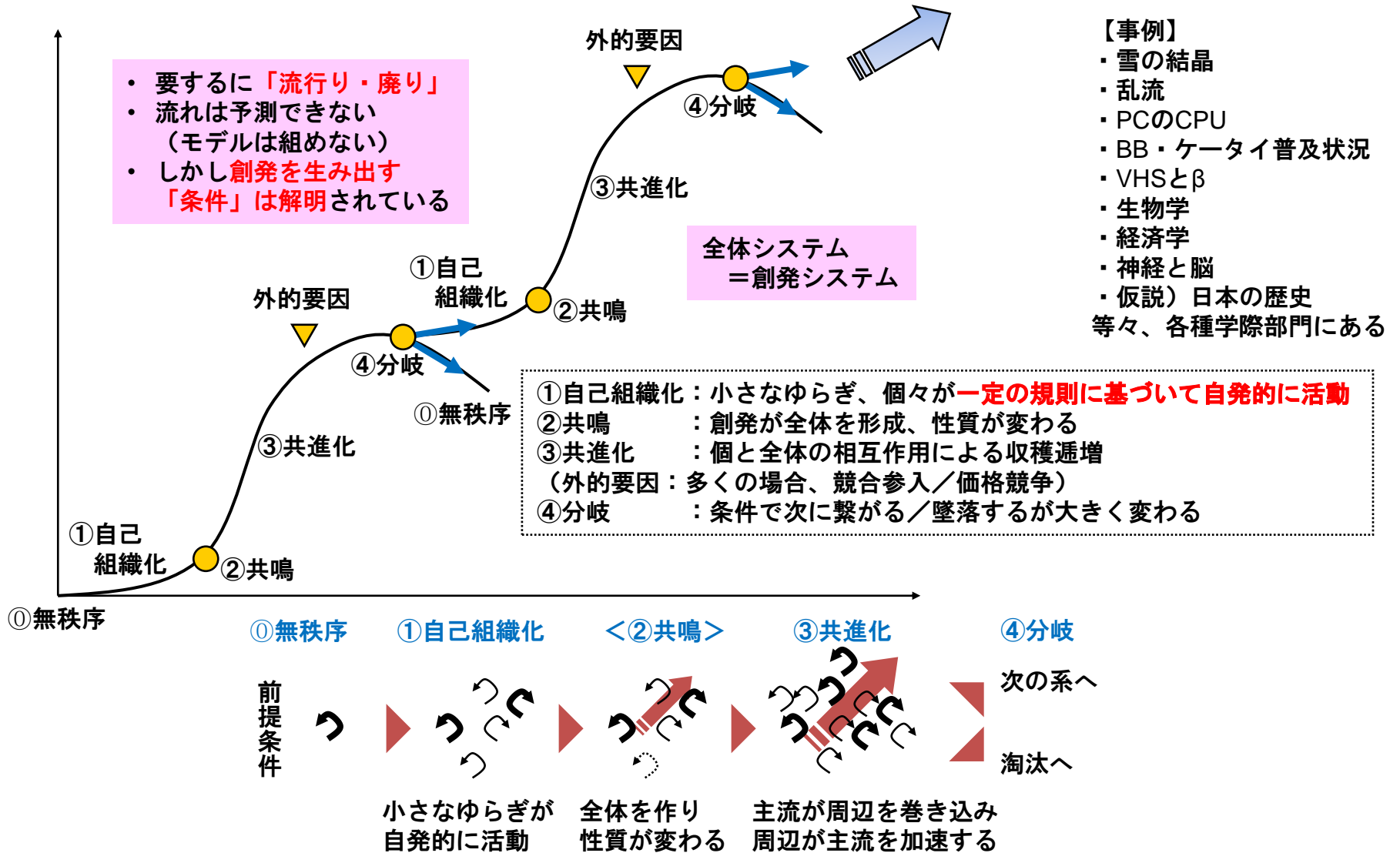
小規模多機能支援拠点(地域福祉の拠点)「あったかふれあいセンター」	
<b>事業の目的</b> 中山間地域における高齢者、障害者、子育て世代等の生活課題に対応し、地域福祉の向上を図る。	<b>事業の概要</b> 地域福祉の拠点として、介護、障害者支援、子育て支援、生活支援等の多様なサービスを提供する。
<b>事業の取組</b> 地域福祉の拠点として、介護、障害者支援、子育て支援、生活支援等の多様なサービスを提供する。	<b>事業の効果</b> 地域福祉の向上、生活課題の軽減、地域コミュニティの活性化等を実現する。
<b>事業の推進体制</b> 関係機関との連携による推進体制を構築する。	<b>事業の今後の展望</b> 地域福祉の向上、生活課題の軽減、地域コミュニティの活性化等を実現する。

- 設置箇所数(平成27年度)  
29市町村43ヵ所で実施予定
- 取組例  
あったかふれあいセンター 寄り家 あったかふれあいセンター-ひととひと (中土佐町) あったかふれあいセンター-ひととひと (新市町)

---

**「場」が盛り上がる仕組み ①～③**

# ① 「場」が盛り上がる仕組み ～複雑系：創発システム～



# ①【分かりやすく】雪の結晶ができる仕組み

## ● 雪の結晶：

→①：バラバラ→①：かちや→③かちや・かちや

### 【雪の結晶】

<②共鳴>  
(相転移①)

かちや・かちや・  
かちや!

(相転移②)

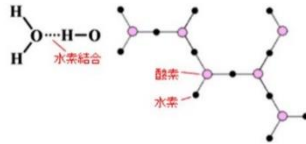
現象

状態

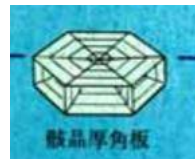
①無秩序

①自己組織化  
(安定成長)

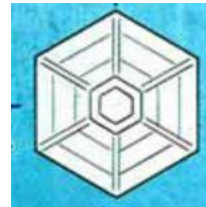
③共進化  
(不安定成長)



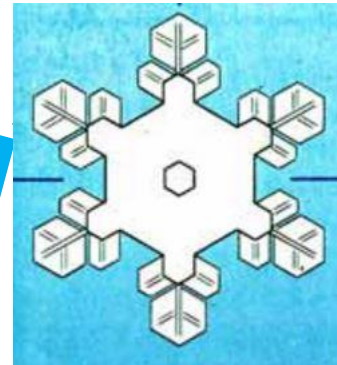
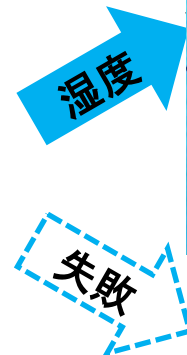
バラバラ



かちや



かちや・かちや

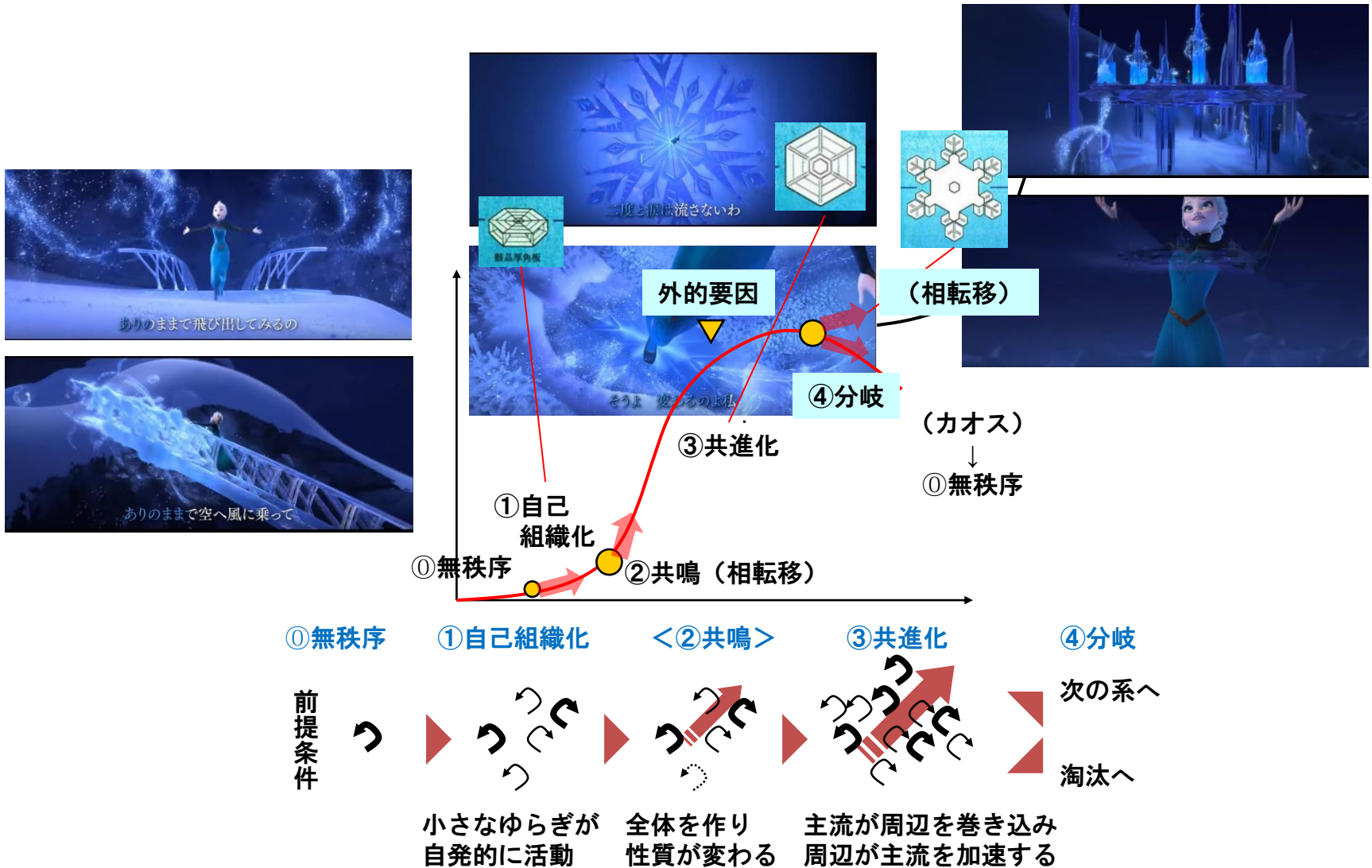


無秩序

120° で6人が手をつなぐ

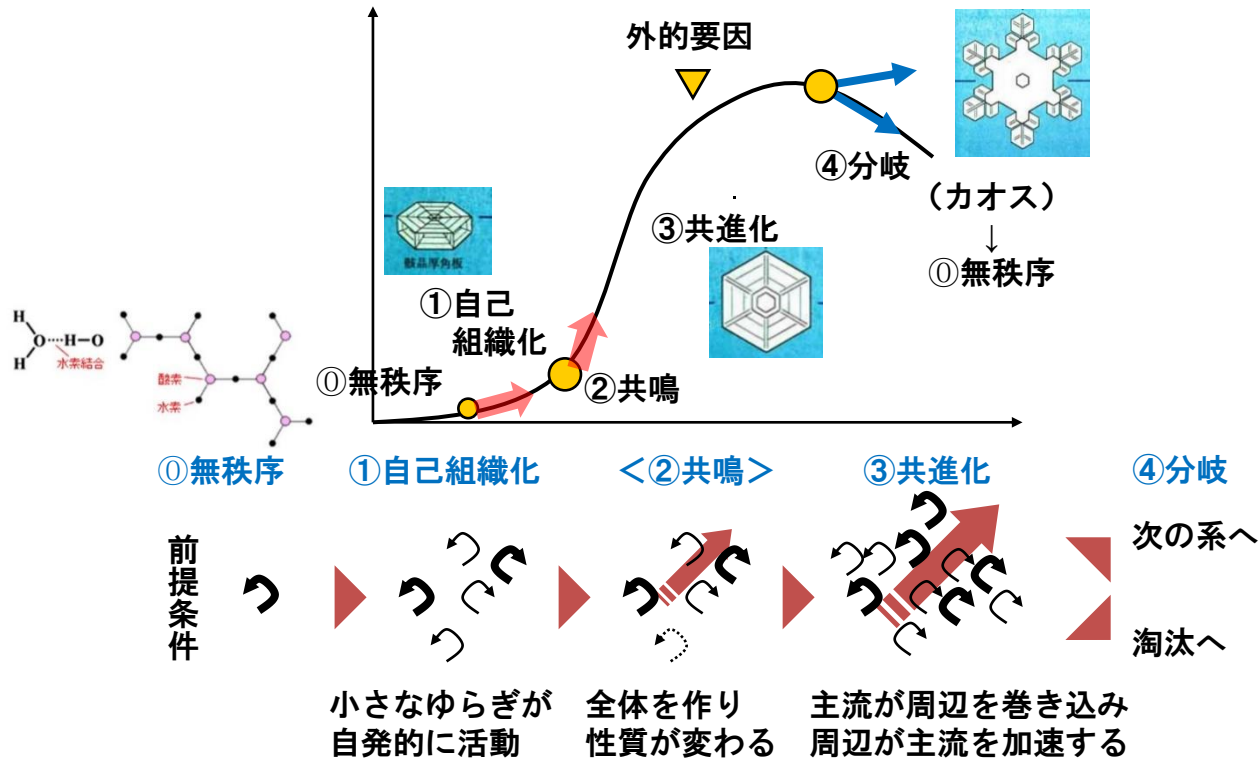
<資料：北海道大学低温科学研究所より(株)インサイト加工>

# ① 【分かりやすく】 雪の結晶ができるイメージ



# ① 「場の盛り上がり」を仕掛ける ～コンサルの見立て～

- 今どの状態なのか？を確認する（①無秩序、①自己組織化、③共進化）
- その上で作戦を考える
  - ①無秩序：創発を生み出す条件を整える
  - ①自己組織化：試行錯誤（成功／失敗）に基づいた方向性の提案
  - ③共進化：Spiral upを崩さないようにする／外的要因に対処する





# 創発システムを発生・維持させるための条件

## 【「創発」を確実に起こす方法とプロセス】

1. **徹底した議論** …… 頭脳をつなげ、**流入**してくる情報・事象を**受け止める**  
(※上長がニュートラルに話を聞かない・受け止めない→正しい情報が流入しないことが殆ど)
2. **試行錯誤** …… 1の議論で生まれたアイデアを**必ず試してみる**
3. **自省作用** …… **失敗を通して**時代の流れと場の状況を**理解しようとする**

<資料：唐沢 昌敬「創発型組織モデルの構築」(2002.5), 慶應義塾大学出版会より(株)インサイト加工>

## 【ご参考】会議のグラウンド・ルール

### ● 創発を生み出す条件を、会議のルールに落とし込み

#### <会議のグラウンド・ルール>

- 絶対に意見を否定しない ※一分退場ルール
- 腕を組まない
- 全員が心地よく、思ったことを話できるように  
→ファシリテーターも最大限配慮するようにします
- 一人で長く話過ぎない様に  
→自分もみんなも大事な時間
- 上乘せ、発展、何でもあり！
- 会議の仕切りは、ファシリテーターが権限を持ちます
- **小さい声、弱い声、遠い声こそが本質的な良い情報**  
→大切にしましょう  
→正しい情報が出てくる「場」をみんなで作りましょう！



## 【ご参考】 楽笑の会議室に貼ってある紙

### 場をコントロールする ～会議のグランドルールを決める～

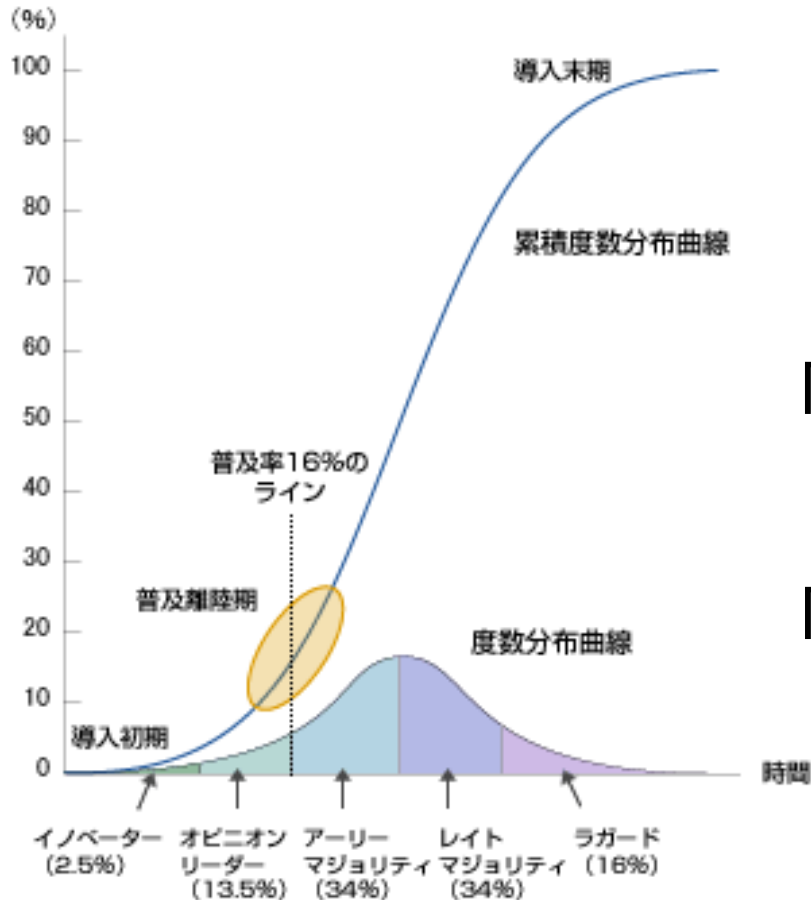
#### 会議のグランドルール(案)

すべし	すべからず
30分に1回は笑う、笑わせる	議題にないものを議論する
思いついたらすぐに口にしよう	おしゃべり
アイデアは簡潔に述べる。でも他人の話も良く聴こう	1人が長くしゃべる
行動に繋がる結論を出す	個人攻撃
時間厳守	あげ足取り
3回意見を言おう	居眠り
最後に振り返り	携帯・メール・LINE



## ② 「盛り上がり」を定量的に見る ～イノベーター理論と購買意欲～

- 1962年、スタンフォード大学のエベレット・M・ロジャース教授が提唱した、イノベーションの普及に関する理論



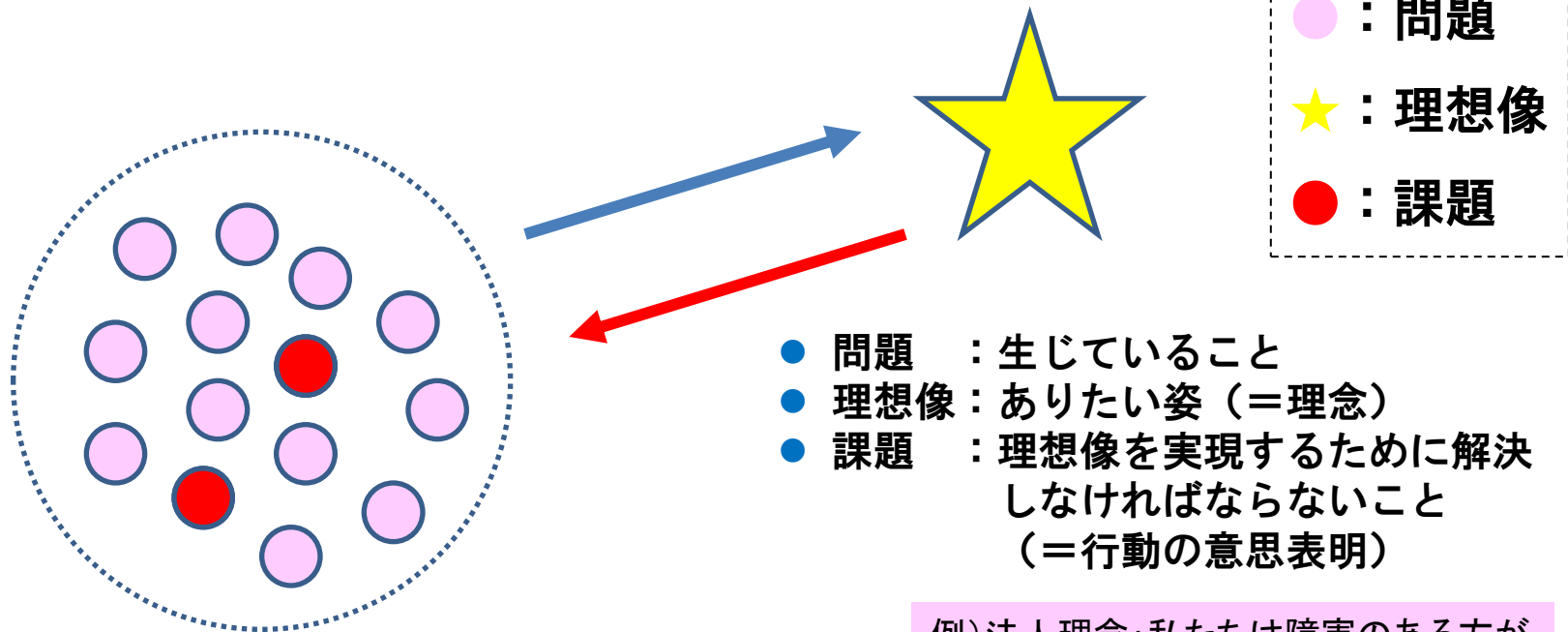
「普及率**16%**の論理」

「普及率**2.5%**の論理」

### ③ 「問題」と「課題」の違いは？

- 「問題」をモグラ叩きするのではなく「課題」を解決する
- 「課題」を設定するには「理想像」（参照するもの）が必要

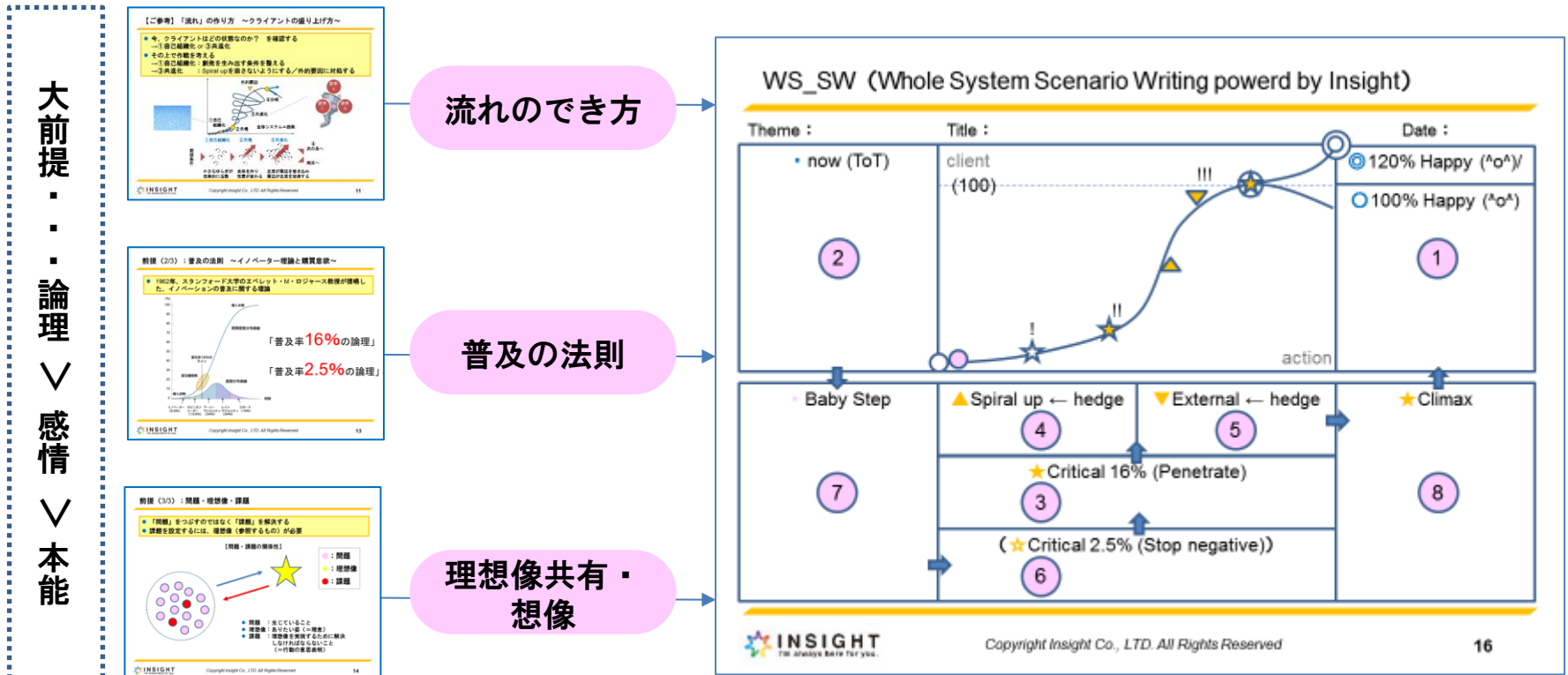
【問題・理想像・課題】



# ①～③を組み合わせて...成功シナリオ・ライティング法

- 大前提&「流れのでき方」+「普及の法則」+「理想像共有・創造」
- 「シナリオ・ライターはどの順番で考えるのか？」を体系化

## 【WSI (Whole System Insight : 包摂的洞察)】

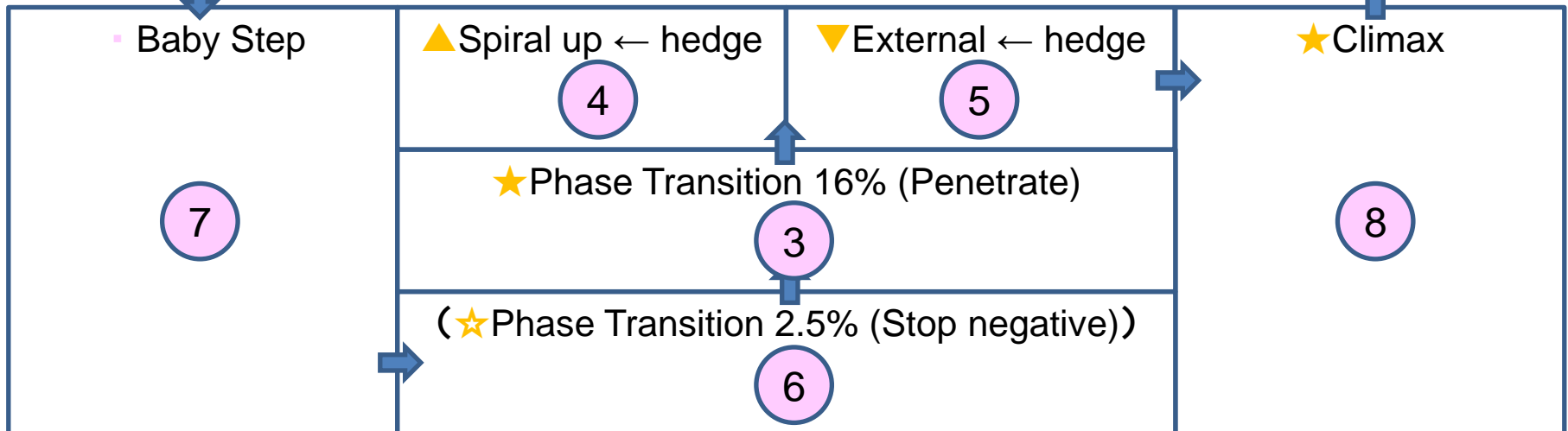
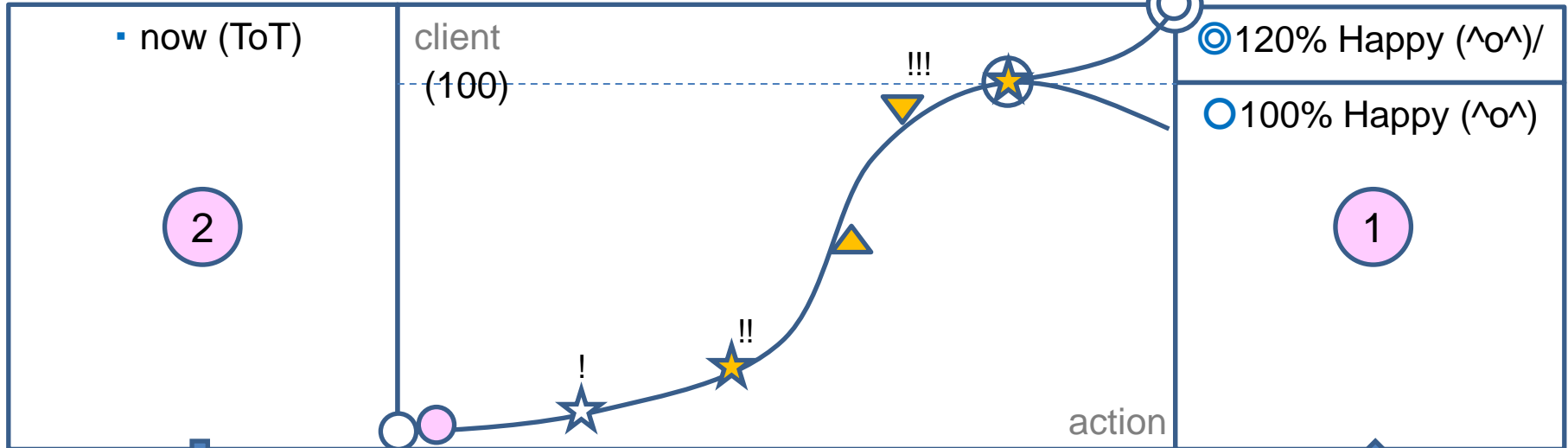


# WSI\_SW (Whole System Insight \_ Scenario Writing)

Theme :

Title :

Date :

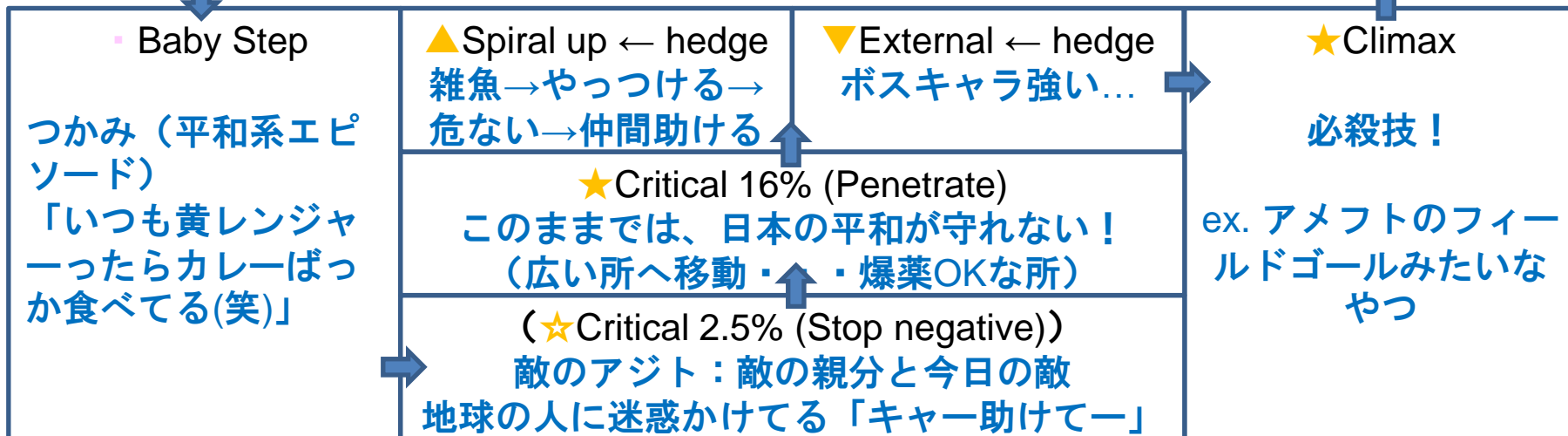
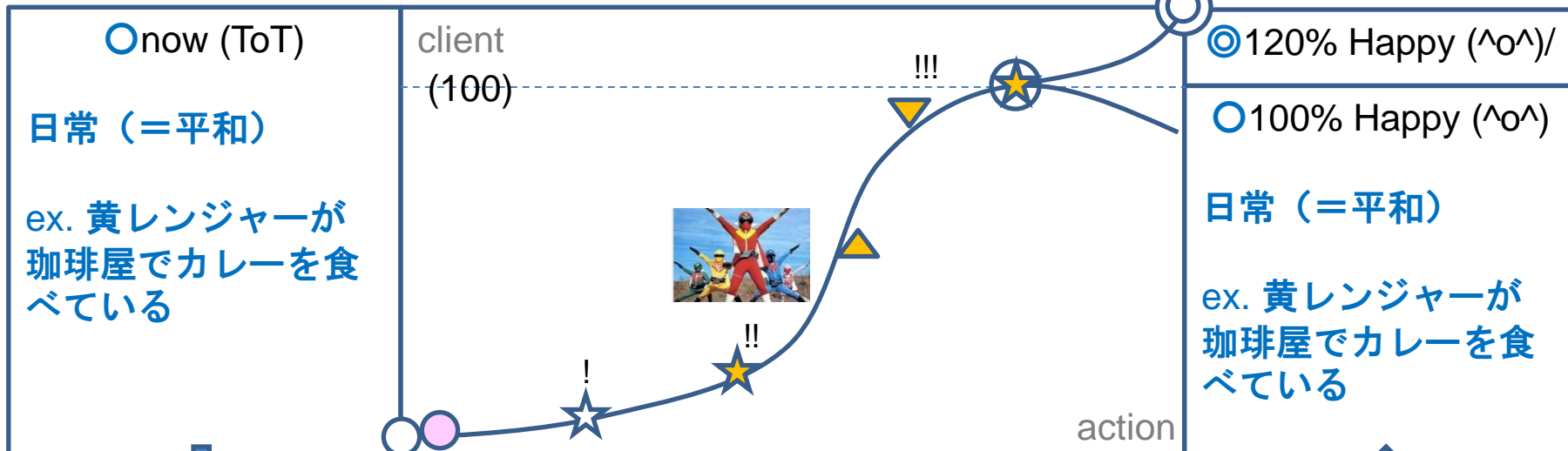


# WSI\_SW (Whole System Insight\_Scenario Writing)

Theme : 戦隊シリーズ

Title : 平和が一番、正義は勝つ

Date : 05Mar16





---

**実践の洞察：三谷**

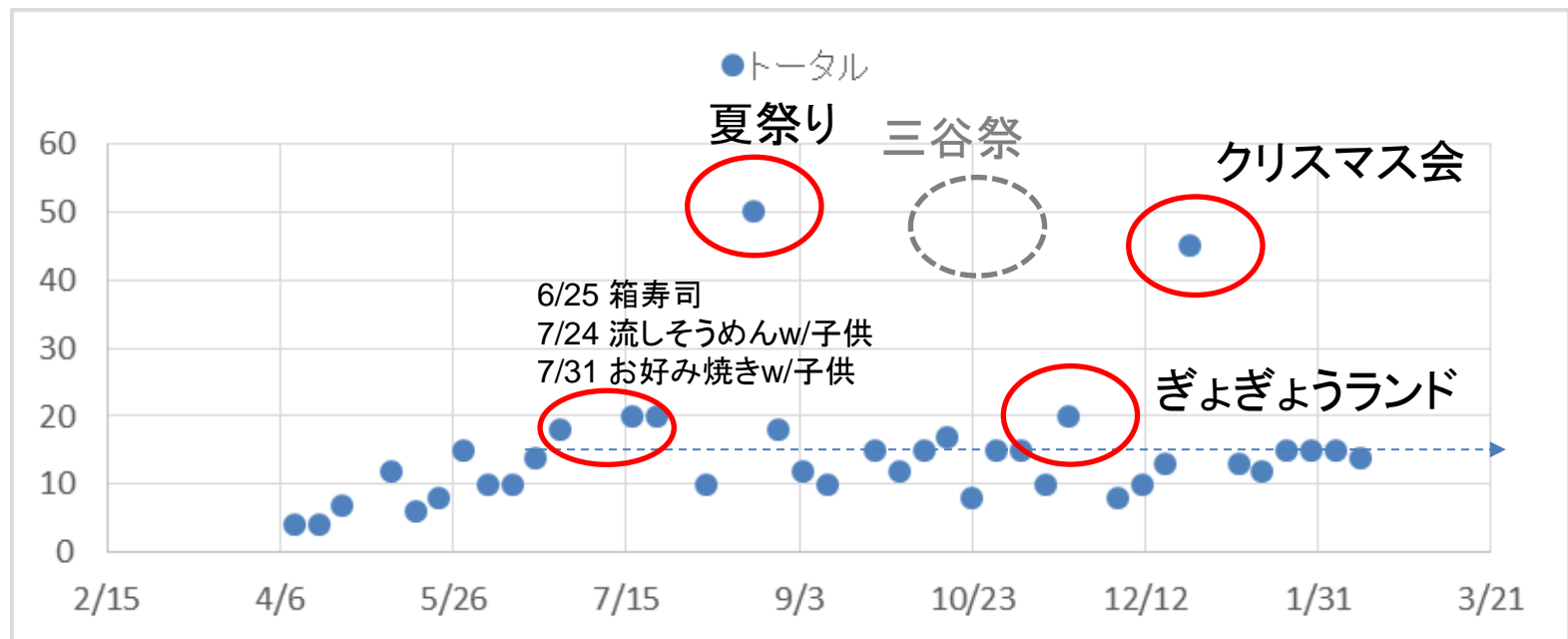
# 今までの取組（データベース）

## ● 定性的・定量的に心の機微を丁寧に集めたとても良い情報ソース

		おしゃべりクッキング系			創作活動系			イベント系		季節系		平成28年2月13日現在	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
活動日及び参加人数		10日(4名)	8日(12名)	5日(10名)	3日(11名)	7日(10名)	4日(12名)	2日(12名)	6日(15名)	4日(8名)	8日(13名)		
		17日(4名)	15日(6名)	12日(10名)	17日(8名)	21日(50名)	18日(10名)	9日(15名)	15日(5名)	11日(10名)	15日(12名)		
		24日(7名)	22日(8名)	19日(14名)	24日(20名)	28日(18名)	25日(15名)	16日(17名)	13日(10名)	16日(12名)	22日(15名)		
			29日(15名)	27日(18名)	31日(20名)			23日(8名)	20日(20名)	18日(13名)	29日(15名)		
活動日合計		3	4	4	4	3	3	5	5	5	4		
参加人数合計 (延べ)	男性		0	4	0	20	0	2	0	13	0		
	女性	15	41	48	59	58	37	65	61	60	55		
活動内容	<input type="checkbox"/>	おしゃべりクッキング～野菜の会～	おしゃべりクッキング～よもぎ餅作り～	おしゃべりクッキング～夏野菜のピクルス作り～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～「担任手講座」	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	「年初めのお茶会」～今年一年の行事を決める～		
	<input type="checkbox"/>	おしゃべりクッキング～野菜の会～	創作活動～カゴバック作り～	「創作活動」～カゴバック・巾着～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	納涼祭～日頃の感謝を込めて～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～優しいヨガ～	おしゃべりクッキング～餅入若粘り作り～	ギョウザ作り～	クリスマスリース作り	針と糸で作る巾着作り1回目・優しいヨガ		
	<input type="checkbox"/>	おしゃべりクッキング～レンジで餅餅～	創作活動～カゴバック作り・優しいヨガ～	おしゃべりクッキング～ビールのようなリンゴゼリー～優しいヨガ～	おしゃべりクッキング～千兵衛に通う子供たちと流しそらめい会～	「オカリナと中国弦楽器二の演奏」	おしゃべりクッキング～赤飯まんじゅう～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～優しいヨガ～	「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	「忘年会」～和食処にて食事～	針と糸で作る巾着作り2回目・優しいヨガ		
	<input type="checkbox"/>		おしゃべりクッキング～オムレツ～スト作り～	おしゃべりクッキング～まきちゃん箱寿司作り～	おしゃべりクッキング～おせみんべいに通う子供たちとお好み焼き会～			「創作活動+脳トレ」～カゴバック・巾着～	おしゃべりクッキング～災害用キャップを使ったレシピ・優しいヨガ～	お正月リース作り	おしゃべりクッキング～白菜料理～		
	<input type="checkbox"/>							おしゃべりクッキング～中ちゃんの羊まんじゅう作り～	「災害時の対処法AED体験」	「クリスマス会」～絵本読み聞かせ、大道芸、ピンゴケム～			
対外の動き	<input type="checkbox"/>	公民館に挨拶	ヨガの先生と打ち合わせ	千兵衛スタッフと交流会の打ち合わせ	まちづくりメンバーと納涼祭会議	日本福祉大学大道芸サークルに依頼	おにまんじゅうレシピの確認・打ち合わせ	消防本部出前講座打ち合わせ	クリスマスリース講師と打ち合わせ・買い物品確認	白菜レシピ打ち合わせ	油菓子のレシピ確認・打ち合わせ		
	<input type="checkbox"/>	回覧板配布	寿司作り打ち合わせ	まちづくりの参加者に交流会の説明	オカリナ奏者と打ち合わせ		災害時クッキング打ち合わせ	お正月リース打ち合わせ					
	<input type="checkbox"/>	公民館チラシ配布			徒歩3分以内の千兵衛近隣民家に納涼祭チラシ配りを行う		ギョウザ作り販売準備・流れ打ち合わせ	日本福祉大学大道芸サークル直前打ち合わせ					
	<input type="checkbox"/>	ヨガの先生に連絡			三谷公民館閲覧コーナーにチラシを掲示				読み聞かせ講師と打ち合わせ				
参加者(地域)の様子	<input type="checkbox"/>	参加者が呼びかけ	参加者が呼びかけが増える。企画に参加するのではなく、散歩のついでにコーヒーとパンを食べにきてくれる人もいた。	少しのぞきにきたと男性が遊びにきてくれた	障がいがあるメンバーの補助をしながら一緒に楽しんでいる。地域との交流で買い出しを仲間で行く機会が増えた。	とても積極的に取り組んでくれている。地域の子供も入り子供に圧倒されてしまい本来の目的がたっせいでなくなった。いろいろなトラブルもあり多くの課題を残した。 ・ダメだったところも含め又来年成功させようといってくれた	自分だけのオリジナルバックを楽しく制作する様子が見られる。 ・巾着作りはパーズに出展するためにサロン以外でも作成されて、それを見るのを楽しみながら、価格を決めたり意見を出し合う	まずは始める方も、知り合いが講師であるとお手伝いに回ることが出来、傍観者にならず、参加しやすい	防災訓練を兼ねた講座も詳しく知ることが出来た。勉強になった声が上がった。とても真剣に取り組んでいる様子が見えた。	季節にあった制作に積極的に取り組む姿勢が見受けられた	裁縫のような難しいことは出来ない。普段からやらない。裁縫は好き嫌いがあざうられた。		
	<input type="checkbox"/>	参加者が講師になる一伝え喜びが生きがいになる	「カゴは作れないからを参加を断念する参加者を見て、やりたいことを聞き、創作活動はカゴと決める。巾着作りなど興味のあることを好きな人で行ってほしい」と思った	「コーヒーを気軽に立ち寄って飲めるような落ち着いた空間であれば男性も継続して参加しているのかも感じた	「興味があったりもなかなか自分から言い出せないこともあった。少々の言動も聞き逃すことがないように上げ形にしてほしい」という声も聞かれた	「納涼祭の目的をしっかりと頭に置き、まちのメンバーと成功に繋げたい	「個々のペースで行うことが出来る。縛りがない、やる気がない時はお話を聞いてほしい。という気軽さが継続に繋がっているのではないだろうか	「季節にあった食べ物を使う企画は会話も広がり個々の知識が飛び交い勉強になる。そこから次回行いたいことが決まることも多い	「人が人を呼び出す仲間が増えてきた	「みんなで楽しむゲームや、演出を観るのはいつものようにきわぬ方と違い、ゆったりとした感覚。新鮮だった。	「行う前に必ず、本人の意思を確認することをお忘れなく		

## 今の位置付け ～全体～

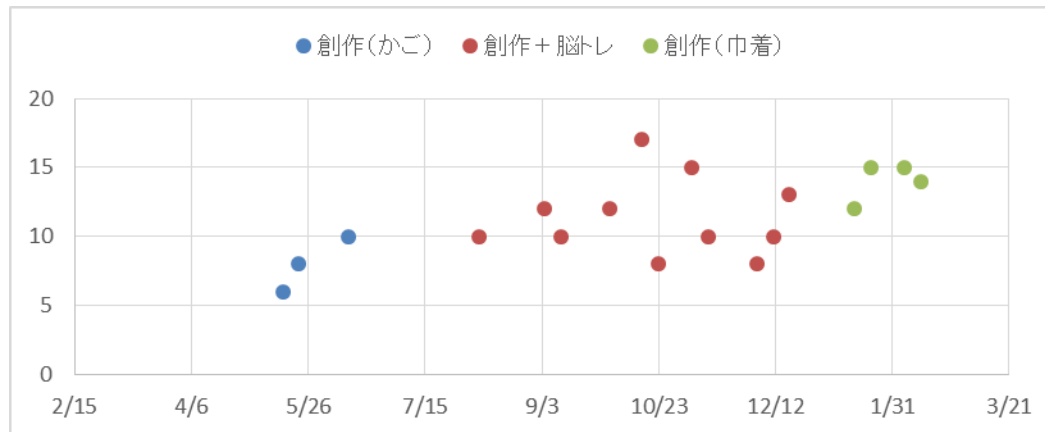
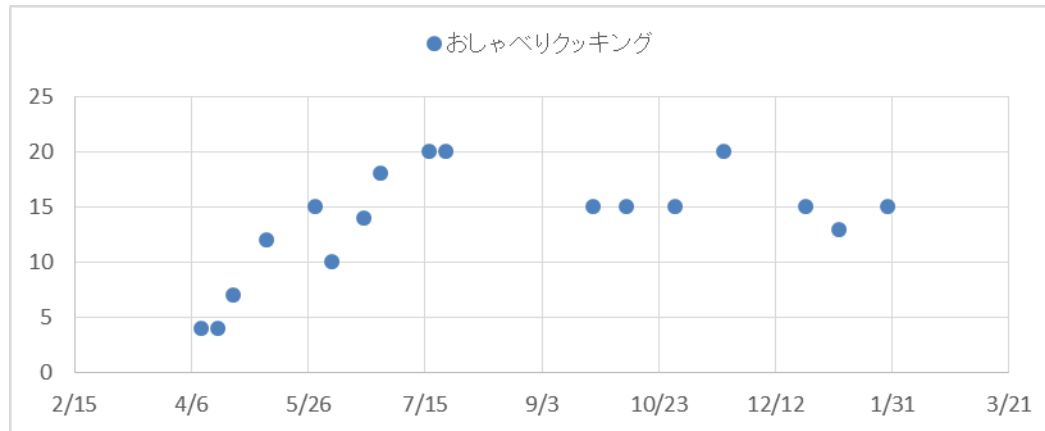
- 創発の条件は揃っている  
(1.徹底した議論(傾聴)、2.試行錯誤、3.自省作用)
- ①自己組織化で15人前後の自発的クラスター2つ  
(6月末以降: 1)クッキング・2)創作)
- ①自己組織化(安定成長)をどう生み出すか?



2コンテンツ(料理、創作)、週1ペース

## 今の位置付け ～クラスター別～

- 2つの自発的クラスター：①おしゃべりクッキング、②創作
  - 構成数：15名前後＝既にある程度のクラスターに
  - クラスター数＝2つのため、週1開催にとどまっている ←KPI



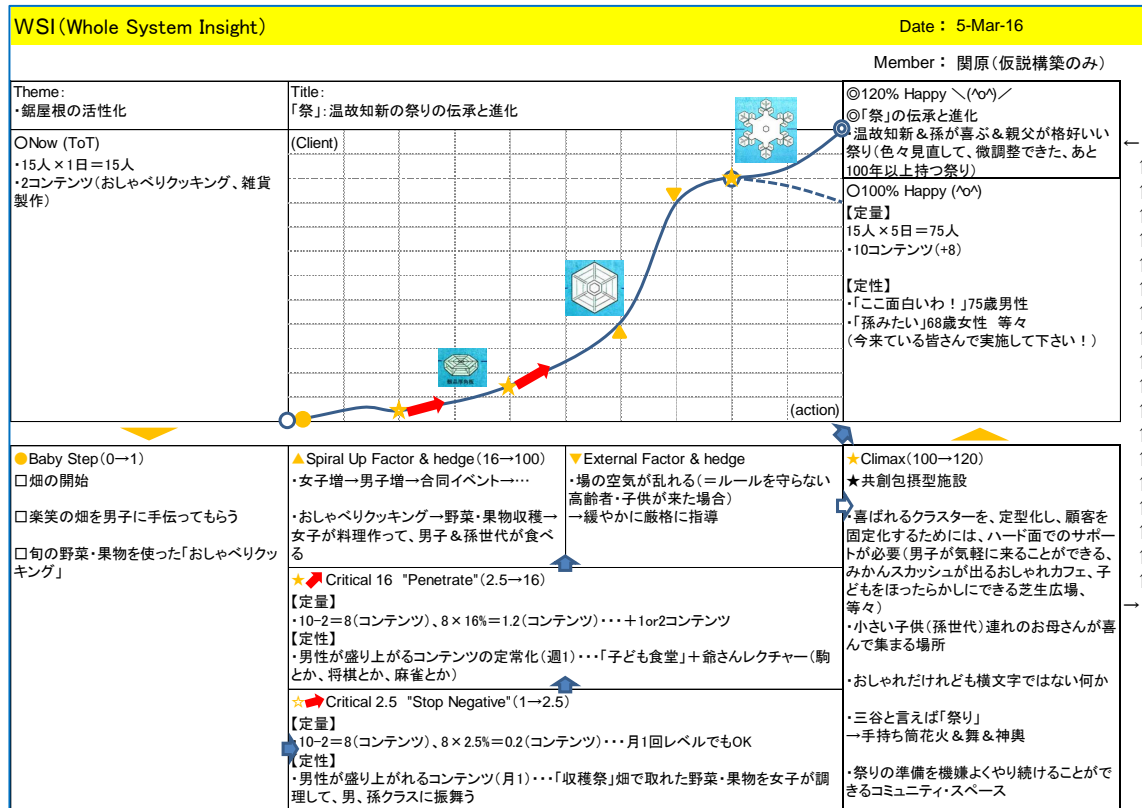
15人×2クラスター  
＝30人/W



クラスター数を増やし、  
週1開催を週2、3と  
増やしていく方向性

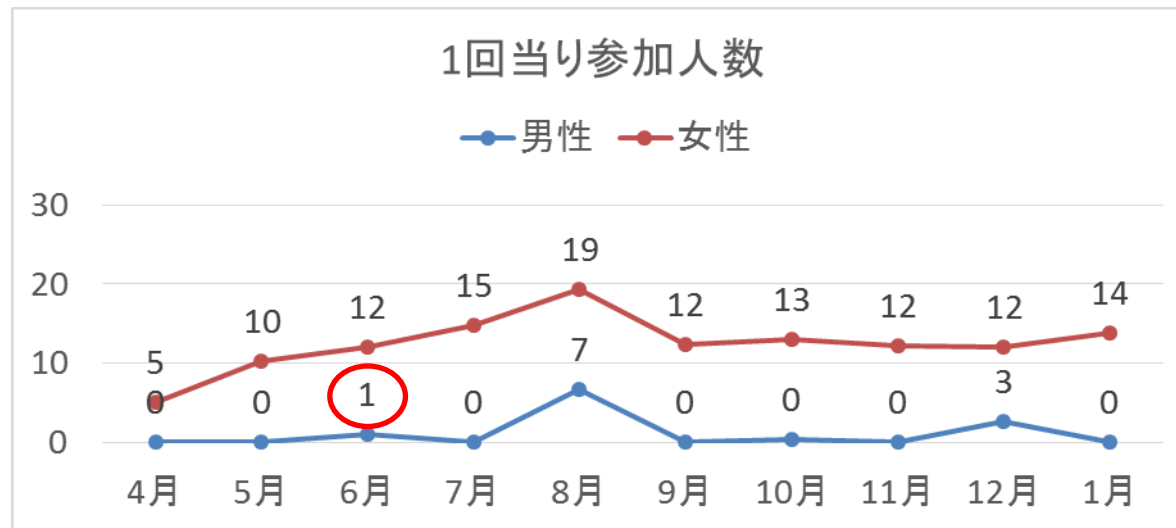
# 定量・定性的洞察 (WSI\_SW)

- Coherence16%は丁度クラスター1個分=あと1個増えれば、共鳴（相転移）を起こし、スパイラルアップ・モードに
- 「教えてよ！ やってよ！」という甘えんぼ型提案でクラスターを増やす



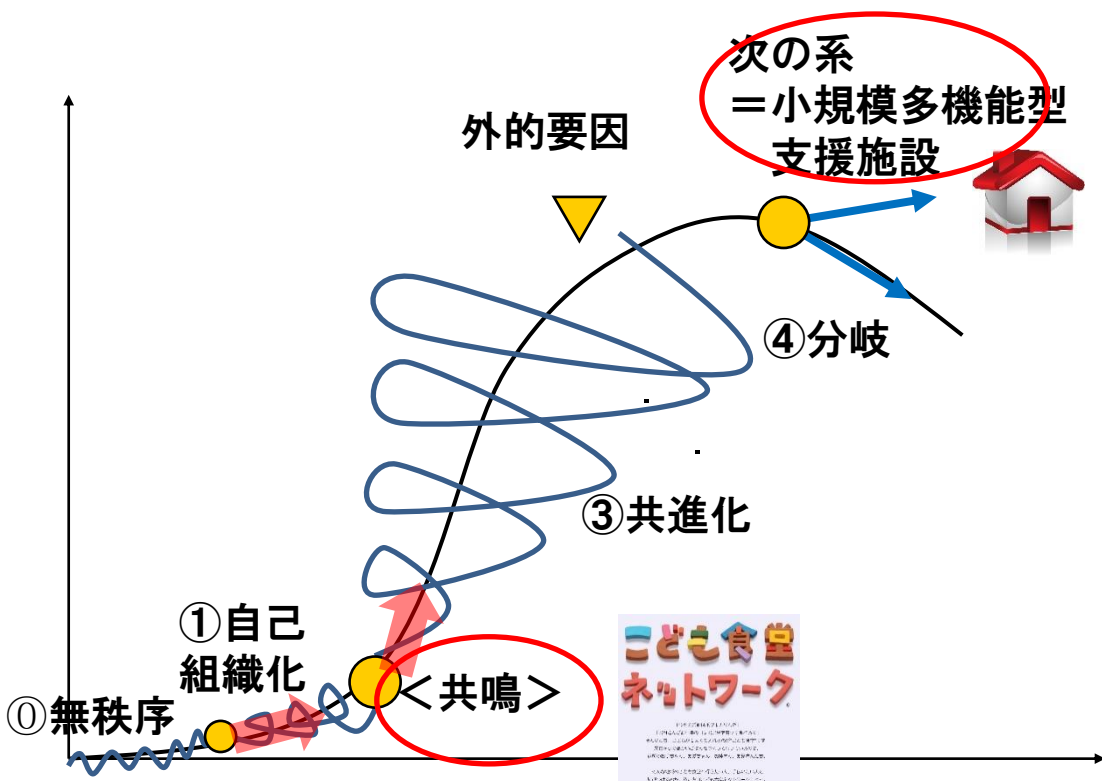
## 自己組織化に入っていくためのヒント

- 不活性クラスターの1つは「**男性**」  
→コンセプトは変えず「やりたいことをやりたいときに」「居心地のよい」場を提供する
- 一方、男子は女子ばかりの所に行きづらい  
→キーワードは、男性の本能・感情に近いもの  
例：外・力強さ＝「農業」、のんびりしたい＝「珈琲屋」、  
妄想＝「きれいな若い女性」 等々
- 感情や本能を論理的に説明（言い訳）できる「大義名分」がとても大切



# (仮説) 共鳴を起こす仕掛けと次の系 (相転移) へ行くために

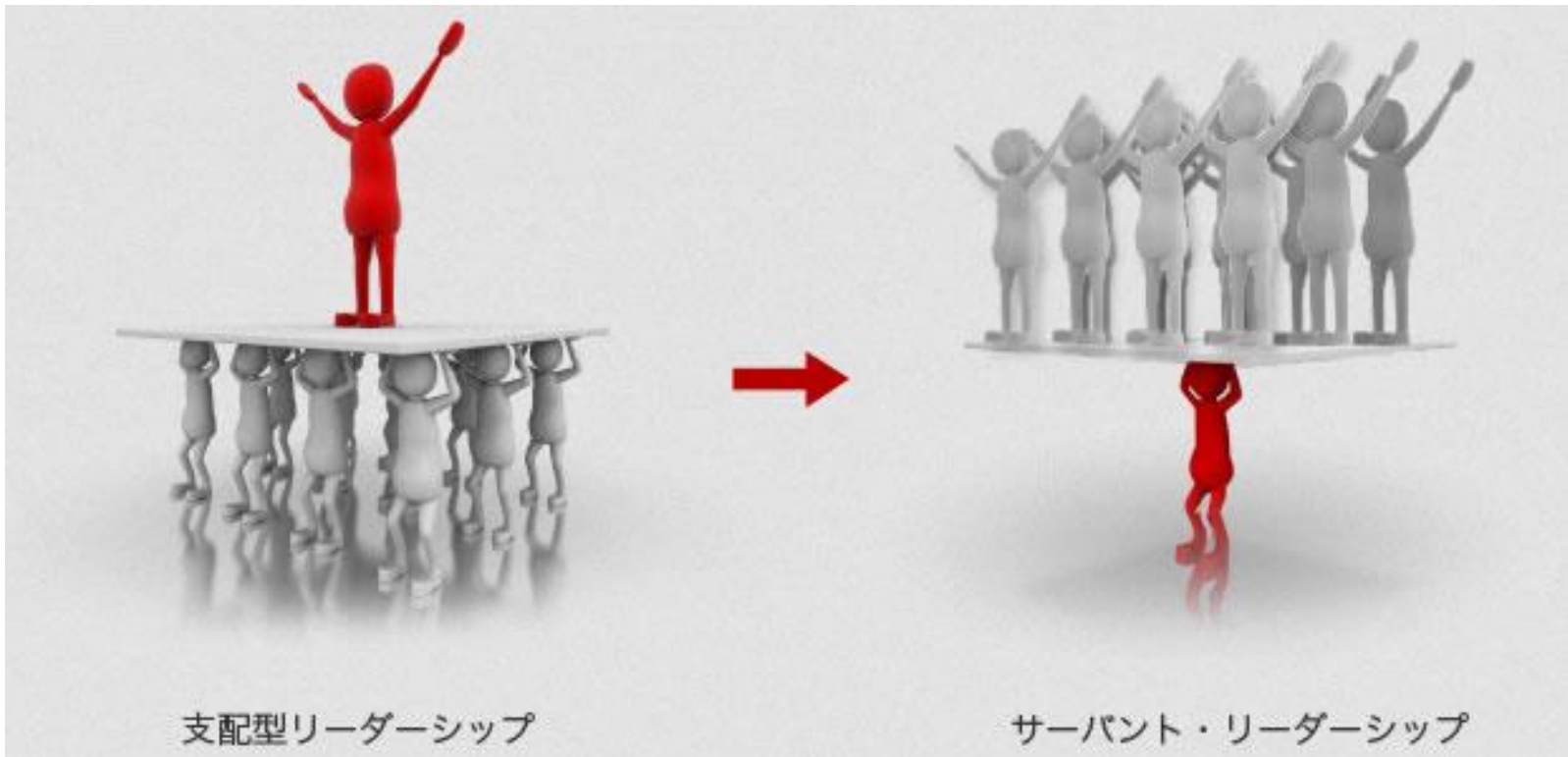
- <共鳴> : 夏休みのこども食堂
- ④分岐 : 地域包括センター ハードを使ってサービスを固定化し次の系へ



- こども食堂だが、誰がきてもいい (独り身の男性も来てほしい、農業でとれた野菜・果物の利用)
  - 将棋とか相撲とかコーヒー挽くとか、何でもいいから自分の得意技を披露してほしい
  - 三谷みんなの「孫」として適切なお節介ができる場所
  - その場づくりを、由美さん・かなさんが今まで通り頑張る
- ▼
- そしてこれらサービスをハード作って固定化=象徴として「小規模多機能型支援施設」

## 全包括型の「場」の管理者＝サーバント・マネージャー

- マネージャーの仕事は、みんなが働きやすい・やりたいことをやれる場を用意すること、上手に甘えること（役割期待をかける）





## まとめに変えて

- 農業（野菜・果樹）が得意な兄さん、募集しております！  
ご存知の方があれば、紹介して下さい。
- おしゃべりクッキングに来ている姉さん、  
作ってもらいたい農作物を由美さん・歌奈さんに伝えて下さい。  
→それを料理して、作った兄さん&みんなの孫に食べさせてあげて  
下さい。
- 由美さん・歌奈さん、そのままで大丈夫です。  
今まで通り、絶対に無理強いせず、楽しんでもらえる**場づくり**をして  
下さい。あわせて、**教えあっこ企画**をどしどし増やして行って  
下さい。